

EDUCA & QUEST

教育と探求社
「企業連携開発教育プログラム」ラインナップ

教育と探求社
EDUCA & QUEST



教育と探求社について

自分らしく、生きる。

教育と探求社は、誰もが「自分らしく」、
主体的で創造的に生きられる社会を目指しています。

2004年の創立以来このビジョンを掲げ、
従来の枠にとらわれない新しい“探求型”の
教育プログラムを開発し続けてきたパイオニアです。

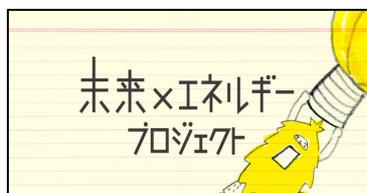
全ての人が「自分らしく」主体的、創発的に生きるため、
自ら考え、学び、探求するきっかけを提供し続ける会社です。

企業連携開発プログラム

企業における課題は、ステイクホルダーとの関係性を無視しては解決できない時代となりました。IRや広報宣伝活動、CSRやCSV活動において、「教育」という人の成長を願う関係性の中でステイクホルダーと関わり、学び合いながら、信頼の絆を構築することが、極めて効果的なコミュニケーション戦略であると私たちは考えています。

特に「次世代を担う子どもたちとのエンゲージメント」は大切な要素です。将来の顧客、株主、従業員となる子どもたちと、強い繋がりを構築し、未来のために企業が実践できることを実践することは有効なアプローチです。貴社のニーズや現状の課題を丁寧にヒアリングし、それを創造的に解決するオーダーメイドの教育プログラムを開発し、教育現場に提供します。

開発プログラム例(一部)

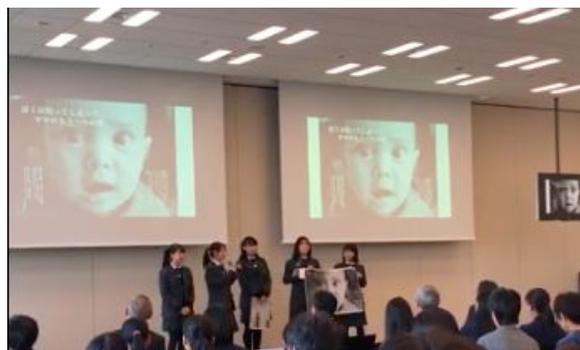


企業連携開発プログラム 事例

①「株の力」(三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社)

投資家にとって、起業家にとって、社会にとって「株の力」とはいったい何なのか。三菱UFJモルガン・スタンレー証券の社員が講師として学校に出向き、株の持つ本質的な力や仕組みについて、生徒の探求の手助けをします。生徒たちは、チームごとに学んだ「株の力」を新聞広告という形で表現します。

本プログラムは、平成28年度文科省主催の「青少年の体験活動推進企業表彰」において「審査委員会奨励賞」を、平成29年度には経産省「キャリア教育アワード」において奨励賞を受賞しました。



企業連携開発プログラム 事例

②「コミュニケーション」・「介護の現実」 (プルデンシャル ジブラルタ ファイナンシャル生命保険株式会社)

社会に出てからも必要となるコミュニケーション力を「スキル」として捉え、様々なペアワークを通して、その道のプロである保険の営業マンから学びます。

急速な日本社会の少子高齢化に伴い、生徒たちにとっても身近な問題となってきた「介護」。センシティブで学校の授業では伝えにくい介護の現実を、ゴーグルや重りを用いたシニア体験や、ケア・プランの作成等のワークを通じて学びます。



企業連携開発プログラム 事例

③「One Minute Movie ～冒険物語をつくろう！～」 (一般社団法人 日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム)

<http://1min.work/>

小学生たちが身近な「もの」から主人公を選び、プロの監督からアドバイスを受けながら、タブレットを使って冒険物語を作る、1日のワークショップです。ショートムービーの製作を通して、物語をつくる力・映像作品をつくる力・発表する力・人を認める力を育みます。



企業連携開発プログラム 事例

④「未来×エネルギープロジェクト」 (SBエナジー株式会社)

<https://www.youtube.com/watch?v=0Yyw7zNrsPU>

小学生たちがタブレットを使って、自分たちで「未来のエネルギー」について探求するエネルギー教育の授業です。

エネルギーについて発見や体験を通して学ぶ、アクティブ・ラーニング型のカリキュラムによって、講義形式以上に、子どもたちのエネルギーに対する関心が高まります。



企業連携開発プログラム 事例

⑤「広告リテラシーを学ぶ体験プログラム」 (公益財団法人 広告審査協会)

インターネットの普及に伴い、様々な形態の「広告」が世の中に溢れ、誰もが情報を容易に発信できるようになりました。本プログラムは、そのような時代に情報の発信者として、また受け手として、広告リテラシーを高めることを目的としたプログラムです。

新聞・メディアに掲載される広告を審査してきた広告審査協会の方が、講師として教室を訪れ、生徒たちが疑問を感じた身近な広告を題材に、広告のルールを学びます。



企業連携開発プログラム 事例

⑥「トレンド・ハンター」 (サイボウズ株式会社)

サイボウズ株式会社の、企業向け業務改善アプリケーション「Kintone」を活用した教育プログラムです。

小学生が、データから真実をつかむ「トレンド・ハンター」となり、タブレットを用いてチームでクラスメートの持ち物の情報を収集します。集めたデータはアプリ内でクロス集計をし、傾向の分析や仮説の検証を行います。

試行錯誤しながらITツールを使いこなすプロセス、またデータ収集・分析・共有のおもしろさを体験できるプログラムです。



アクティブ・ラーニングを取り入れた教育プログラムの評価

教育界から、プログラムの評価を頂いております。

紀要論文「探求型の学習プログラムが中高生のキャリア意識に与える影響」より
「クエストエデュケーション」プログラムを通じて「コミットメント力」
「課題認識・理解力」「情報収集・活用力」「プレゼンテーション力」が
伸びることを実証的に明らかにした。

法政大学キャリアデザイン学部 専任講師 田澤 実先生

「クエストエデュケーション」は中高生が実社会とふれ合うことのできる
アクティブ・ラーニングの先駆けで、
これだけの規模で10年間も実施しているプログラムは他に例がありません。
5年後、10年後には時代が追いついてきて、
このような活動歴がさらに評価されるようになると確信しています。

文部科学大臣補佐官
東京大学・慶應義塾大学 教授 鈴木 寛先生

教育と探求社について

会社概要

社名	株式会社 教育と探求社
本社所在地	東京都千代田区四番町4-9 東越伯鷹ビル6F
設立	平成16年11月26日
代表者	宮地 勘司
資本金	6,300万円
事業内容	学校及び企業向け教育プログラムの開発と提供
役員	代表取締役社長: 宮地 勘司 取締役: 米倉 誠一郎(一橋大学教授) 取締役: 山田 義博 監査役: 若山 理子



沿革

2004	現代表・宮地 勘司が日本経済新聞社より独立し創立
2005	クエストエデュケーション提供開始
2009	かわさき起業家大賞受賞
2012	キャリア教育アワード受賞
2014	博報堂・慶応義塾大学等と未来教育会議を開始
2015	Quest Career in HaNoi実施開始
2016	パワー・オブ・イノベーション実施開始
2017	一般社団法人ティーチャーズ・イニシアティブ設立 ソーシャルチェンジ提供開始 クエストエデュケーショングッドデザイン賞受賞
2018	スモールスタート提供開始 ソーシャルチェンジイングリッシュ提供開始 ザ・ビジョン提供開始 ワークストーリーアワード審査員特別賞「ナラティブ・オーガニゼーション賞」受賞



未来教育会議



過去の実績

教育プログラム開発実績

日本経済新聞・JAXA(宇宙航空研究開発機構)
日立製作所・富士通・SBエナジー
三菱UFJモルガン・スタンレー証券
日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム
プルデンシャルジブラルタファイナンシャル生命
広告審査協会・サイボウズ
茨城県・茨城県東海村・群馬県 他

研修実績

アメリカン・エクスプレス・NEC・富士ゼロックス
良品計画・くまもと田原・バクスター・花王
あなぶき興産・フロシネス
アカデミーヒルズ「日本元気塾」
住友林業・三井住友銀行・オムロン
東京海上日動・佐川急便
大手金融機関・中央官庁
埼玉県・くまもとテクノ財団 他

採択・受賞歴

クエストエデュケーション

経済産業省「起業家教育促進事業」採択(2005)
埼玉県「明日の埼玉を創る渋沢スピリッツ人材育成事業」採択(2006)
かわさき起業家大賞受賞(2009)
経済産業省「キャリア教育アワード優秀賞 受賞(2012)
グッドデザイン賞受賞(2017)
経済産業省「『未来の教室』実証事業」採択(2018)

Quest Career in HaNoi

文部科学省主管「EDU-Port応援プロジェクト」採択(2017)
日越外交関係樹立45周年関連事業(2018)

株の力

文部科学省主催「青少年の体験活動推進企業表彰」「審査委員会奨励賞」受賞(2016)
経済産業省「キャリア教育アワード」大企業の部 奨励賞 受賞(2018)

教育と探求社

第18回テレワーク賞「奨励賞」受賞(2017)
第2回ワークストーリーアワード審査員特別賞
「ナラティヴ・オーガニゼーション賞」受賞(2018)

